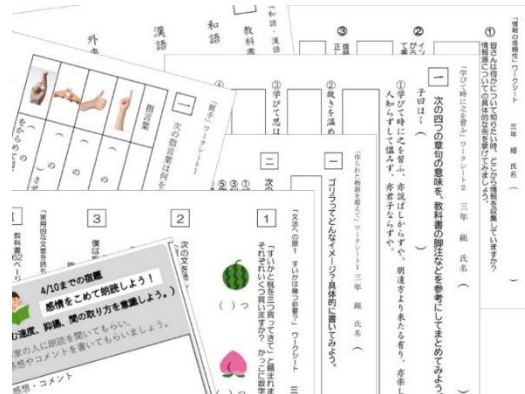


二つ目は「**手作り**」です。授業では毎週ワークシートを使用していましたが、既製ワークシートの内容を参考にしながら、授業時間や生徒たちの関心に合わせて手作りしていました。そうすると、単なるファイルではなく、手間をかけて作った「手紙」のようなものになりました。手作りワークシートのこだわりの一つはフォントです。内容は同じでも、明朝体や丸ゴシックなどフォントが変わることで、受ける印象が変わります。ワークシートの課題に真剣に取り組んでくれ、丁寧な字がぎっしり書き込まれて返されると、やりがいを感じると同時に、ワークシートを介した生徒たちとのやりとりも楽しむことができました。



また、授業に関連した小話（スモールトーク）を積極的に取り入れるようにしました。Zoomでのオンライン授業は少し無機質に感じる事があったので、学級活動や授業でのアットホームな雰囲気作りを心がけました。教科書で春に関する内容が出てきた際には、「さくら」の表記の多様性（さくら、サクラ、桜、櫻、Sakura など）についてのお話をしました。色々なフォントや文字に触れ、語感や音感ならぬ「文字感」を養っていくことが大切だなと感じました。



三つ目は「**手書き**」です。Google クラウドルームやオンライン教材の充実によって、授業前の配信や課題の提出はとても便利になりました。その一方で、手で文字を書くという機会が少なくなったようにも感じます。パソコン入力の方が手書きよりも効率的で、内容の修正もしやすいという利点がありますが、ワークシートを使用しながら限られた時間の中で、手書きの活動をできるだけ取り入れました。例えば、書くことを中心とした言語活動として、「私のお気に入り」というテーマで紙面を作成しました。好きな食べ物、思い出の場所、趣味など、自分の好きなことについて、①丁寧な字で、②

自然な日本語で、書くことを目標としました。提出された作品は、一字一字に心がこもっていて、また手書きのイラストや写真なども糊付けされ、紙面のデザインやレイアウトにもこだわりが感じられる素晴らしいできとなりました。定番フォントや手書き風フォントは見た目はきれいですが、やはり手書きに敵うものはないですね。

オンライン授業にはまだまだ改善の余地があると思います。コロナ禍でも頑張る生徒たちを応援すべく、これからも工夫を重ねていきたいと思っています。

公衆衛生学にたどり着くまで（2014 年度卒業生 宗像 ナツチャー 克子）

私は、2020 年に地元、バージニア州にあるジョージメイソン大学で公衆衛生学(Community Health)を学んで卒業し、現在は DC 市内のジョージワシントン大学公衆衛生大学院で疫学(Epidemiology)を専門に勉強しています。

公衆衛生学を一言で表現すると、社会の様々な健康を害する恐れのあるもの、例えばウイルス・薬品・環境汚染・食生活などから人々の生活や健康を守ることに関する学問です。現在は、環境や人口の長期的傾向を観察して疾病予防に役立てる人口衛生管理やいかに健康への弊害を削減するかなどを研究しています。





大学で公衆衛生学を勉強するに至った経緯と、日本語学校との関わりを振り返ってみたいと思います。ワシントン日本語学校には、幼稚園の入園式からから高等部2年の卒業式まで12年間通いました。私は、タイ人と日本人の両親のもとで米国で生まれ育ったアジア系アメリカ人です。そんな私が日本語学校に通って良かったところは、日本語での学習を通じて、自分のルーツである日本を身近に感じ、アジア人としてのアイデンティティも培えたところだと思っています。楽しかった運動会をはじめ、様々なイベント、授業中の先生や級友たちとのやり取りを思い返すと、本当に懐かしい気持ちになります。

様々な文化的背景を持つ級友や先輩たちとも日本という共通点で結

ばれ、他のコミュニティではあり得ないくらい長い期間を共にした経験も人生の財産になったと感じています。

高校時代は日本語キャンプのカウンセラーやジャパnbowlのコーチングを務め、指導を担当したチームが好成績を収めたことが評価されて、ホワイトハウスでオバマ大統領が安倍総理を迎える式典に参加してお二人と握手することができました。また、現地校ロボティクスプログラムの運営リーダーとしてロジスティクスやファンドレイズのために地元企業を訪問してプレゼンを行いました。ジュニアとシニアになる年には、NIHでの夏季インターンに選抜されてラボで働く経験を積むことができ、その後の進路の下地となりました。

ジョージメイソン大学に進学し、2年生の夏にタイ大使館とUS-Asia Instituteによるリーダーシップ育成のインターンプログラムへの参加資格を得て、全米から集まったタイ系大学生と共に連邦政府機関やNGOでの業務の傍ら、議員と面談したり、国務省やシンクタンクを見学する機会に恵まれました。実際に行政の中で仕事をしてみたことで、より幅広い視点が得られたと思います。3、4年時には大学内の健康意識を向上するプログラムに携わったほか、学費の支払いが困難な学生を救済したり、ハラスメントなどから学生を保護する部署で働きました。高校から大学にかけて様々な職場で貴重な経験を積んだことで、公衆衛生学を更に深く学びたい、大きく社会に貢献する仕事がしたいと思うようになり、大学院に進みました。

思い返すと、多様な生徒が集まるワシントン日本語学校での経験も、様々な人口集団に対して慢性疾患のリスクを低減する健康管理の仕組み作りを学ぶ公衆衛生学を勉強したいと思うきっかけになった気がします。また日本語学校で学んだ算数や数学が現地校より進んでいたおかげで数学的理解がいっそう深まり、その後の大学と大学院でも理系をベースとする分野を専攻するに至ったと思います。更にはワシントン地域で自分とは異なる背景を持つ人に揉まれて育ったおかげで、幅広い世界的視点で自分を取り巻く環境や状況を見渡せるようになりました。



とは言え、現地校と日本語学校の勉強を両立させるのは大変で、ストレスを感じることもありました。しかし、全てを完璧にこなせなくても、宿題の提出や日本語力の向上など身近な目標に取り組み、少しずつ積み上げていく大切さを学びました。また、学校生活や日本語関係のボランティア活動を通し、相手の気持ちを察したり、集団として目的を達成するための方法を考えたり、提案したりできるようになったと思います。

コロナ禍によって注目が集まっている公衆衛生学は、実は細菌やウイルスなどの医学的な内容だけではなく、社会学や法律なども加わった幅広い分野の学問です。将来的にも重要な分野で、私たちの日常生活に大きく関わっており、国際的な視点を持つ幅広い人に参加してもらいたいです。日本語学校で2か国語の習得・維持に励んでいる皆さんにも興味を持ってもらえると嬉しいです。

現在コロナ禍で、日米間でも行き来が難しい状況です。パンデミック宣言前から社会的影響を心配していましたが、これほどまで多くの方の生活に影響が出るとは想像だにしていませんでした。社会情勢が今後どのように変化していくか、不安も少なくありません。それでも、コロナ禍での辛い経験を含め、あらゆる経験が何らかの形で役に立つ日が来ると信じています。在校生の皆さんには、日本語学校に加えて現地校やワシントン地域で得られる色々な経験を活かして、ぜひ将来の夢の実現につなげていって欲しいと願っています。

委員長からの報告

周辺の現地公立校対面開校に引き続き、9月4日、約1年半ぶりに聖心SR校に日本語学校が戻ってきました。当日を迎えるにあたり先生も生徒も期待と緊張とが入り混じっていたかと思いますが、いざ授業が始まってみれば色々な制限がある中、先生、生徒の笑顔と声が教室に溢れていました。これより本校は対面およびオンラインクラス体制で運営してまいります。改めまして対面開校に向けご協力いただきましたすべての学校関係者、保護者の皆様にお礼申し上げます。また何かとご不便をおかけしておりますが安全に対面授業を継続するため、今後ともコロナ禍の学校運営にご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さて同日夕方には月例の運営委員会が開催され早速対面授業初日を振り返り、コロナ安全対策の改善点を協議しました。その他、本校就業規則の改定案、保護者役割の改定案、本年度の放課後活動、学校広告業務など多岐にわたり協議しました。また10月に予定されている運動会、年次総会の準備状況の確認を行いました。運動会は授業と同じく午前・午後二部制となりますが、関係者一同着々と準備を進めております。10月9日が好天に恵まれるように祈りましょう！

アマゾン・スマイルをご利用ください

[アマゾン・スマイル](#)をご利用いただくと、アマゾンでお買い物をするたびに、購入金額の0.5%が自動的にアマゾン社から当校へ寄付されます。保護者の皆様にはご負担がない形で寄付ができる仕組みです。オンラインショッピングの際にはぜひアマゾン・スマイルをご利用ください。



寄付にご協力ください！



ワシントン日本語学校では随時オンラインで寄付を募っております。ご協力いただける方は、本校ウェブサイトの[「寄付概要」ページ](#)にある左の画像をクリックしてください。

委員長：	渡辺政志
副委員長：	小野龍生
総務部：	辻川扶紀（部長）・金杉沙織・ジャコブソン彩子・竹村聡子・邊田寿俊
財務部：	野崎仁宏（部長）・牛嶋 崇
教育人事部：	ベイカー浩子（部長）・小野莉彩佳・金城由佳子・善治聡人・マッキソック美穂
広報部：	ミトリック理香（部長）・小寺友美
学年代表：	河野真弓（低学年代表）・バーラット和子（中学年代表）・片田順子（高学年代表）